

## ロシア語の連用修飾的複文

宮内拓也, 佐山豪太

## 1. はじめに

ロシア語学において「複文(сложные предложения)」とは、「重文(сложносочинённые предложения / compound sentences)」といわゆる「複文(сложноподчинённые предложения / complex sentences)」を共に含む(АН СССР 1980: II: 462). 本稿も「重文」といわゆる「複文」の区別はせず、共に「複文」として扱う。

以下、2節にてアンケートに沿った形でロシア語の例文を提示して解説を加える<sup>1</sup>。なお、本稿における例文番号はすべてアンケートの番号と同一である。アンケートにて回答を求められた例文以外にも、必要に応じて補足的な例文を加えてある。その際は同一の例文番号のもと、より小さな項目(a, b, c...)によって示しており、補足した例文である旨は注において示してある。

## 2. アンケートへの回答

- (1) a. Обычно он обедает, читая газету.  
usually he has-dinner read-IPFV.GER. newspaper<sup>2</sup>  
b. Обычно он читает газету и обедает.  
usually he reads-IPFV. newspaper and has-dinner-IPFV.  
「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。」

ロシア語において、非限界的なアスペクトを持つ2つの動詞が同時に行われる際、(1a)のように副動詞現在<sup>3</sup>を用いて表す(АН СССР 1960: 521, АН СССР 1980: I: 672, Wade 2011: 390-391). (1b)のように、不完了体の定形動詞を接続詞 *и* で繋ぐことも可能であるが、この場合は同時動作(「～しながら」)のニュアンスはあまり出なくなるようである。

<sup>1</sup> アンケートのロシア語訳は、すべてロシア語母語話者の確認を経ている。

<sup>2</sup> グロス議論に関わるもののみ付す。文法情報の略記は以下の通り: SG.=単数, PL.=複数, M.=男性, F.=女性, N.=中性, NOM.=主格, ACC.=対格, GEN.=生格(属格), DAT.=与格, INS.=造格(具格), LOC.=前置格(所格), AN.=有生, INA.=無生, 1ST.=1人称, 2ND.=2人称, 3RD.=3人称, PFV.=完了体(完了相), IPFV.=不完了体(不完了相), IMP.=命令法, SUBJ.=假定法, GER.=副動詞, PART.=助詞。

<sup>3</sup> 副動詞とは分詞の一つで、副詞的な働きをするものである。副動詞現在(不完了体副動詞)は不完了体の動詞から形成される。

- (2) a. Вчера, вернувшись домой в 10 часов и немного посмотрев  
 yesterday return-PFV.GER. home in 10 hours and a-little watch-PFV.GER.  
 телевизор, я лёг спать.  
 TV I went-to-bed-PFV.
- b. Вчера я вернулся домой в 10 часов, немного посмотрел телевизор  
 yesterday I returned-PFV. home in 10 hours a-little watched-PFV. TV  
 и лёг спать.  
 and went-to-bed-PFV.
- 「私は昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見てから、寝ました。」

継起的な動作についても、(1)と同様に副動詞を用いて表現される場合(АН СССР 1980: I: 672)と接続詞を用いて表現される場合がある。(2a)では副動詞過去<sup>4</sup>が用いられ、(2b)では完了体の定形動詞が接続詞 *и* によって繋がれている。

- (3) a. Вчера я упал с лестницы и ушибся.  
 yesterday I fell-PFV. off stair and was-injured-PFV.
- b. Вчера, упав с лестницы, я ушибся.  
 yesterday fall-PFV.GER. off stair I was-injured-PFV.
- 「(私は)昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。」

理由を表す継起的動作についても、(1)、(2)と同様に副動詞と接続詞の両方で表すことが可能である。(3a)は接続詞 *и* で定形動詞が繋がれており、(3b)は副動詞過去が用いられている。

- (4) Сегодня опять отец пошёл на работу, а брат – в университет.  
 today again father went to work and brother to university
- 「今日も父は会社に行き、兄は大学に行った。」

副動詞は主節と従属節の主語が一致する場合に用いられ(АН СССР 1980: I: 672)、言い換えれば、主語が異なる場合は使用できない。なお、(4)では対比を表す接続詞 *а* が用いられている。前半の節 *Сегодня опять отец пошёл на работу* と後半の節 *брат – в университет* の述語動詞は同一のものが想定されるため、後半の節では省略されている。

- (5) Он ходил в шапке.  
 he walked in hat
- 「(あの人は)今日は帽子をかぶって歩いていた。」

<sup>4</sup> 副動詞過去(完了体副動詞)は完了体の動詞から形成される。

(5)では、前置詞句 *в шанке* によって付帯的状況が表現されている。

- (6) В выходные я либо читаю книги, либо смотрю телевизор.  
 in day-off I or read-IPFV. books or watch-IPFV. TV  
 「(私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

並行して行われる動作は定型の動詞を接続詞でつなぐことで表現される。接続詞 *либо* は相関的に用いられている。(2)では接続詞 *и* が用いられていたが、(6)ではそれと異なる接続詞を用いることで、並行動作のニュアンスを表現している。

- (7) a. Так как у нас мало времени, давай поспешим.  
 since at us little time let's hurry  
 b. У нас нет времени, поэтому давай поспешим.  
 at us not time so let's hurry  
 「時間がないから、急いで行こう。」

理由を表す際は(7a)のように合成接続詞(составные союзы / compound conjunctions)の *так как* が用いられる。(7b)のように結果を表す副詞 *поэтому* を用いても同内容が表現可能である。

- (8) a. Так как вчера у меня болела голова, я лёг спать раньше, чем обычно.  
 since yesterday at me ached head I went-to-bed earlier than usual  
 b. Вчера у меня болела голова, и я лёг спать раньше, чем обычно.  
 yesterday at me ached head and I went-to-bed earlier than usual  
 「昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。」

(7a)と同様に、(8a)でも合成接続詞 *так как* によって理由を表している。この意味の場合には、(8b)のように接続詞 *и* を用いることもできる。

- (9) a. Он пошёл купить книгу.  
 he went to-buy book  
 b. ??Он пошёл, чтобы купить книгу.  
 he went that-SUBJ. to-buy book  
 「あの人は本を買いに行った。」

с. Он пошёл в магазин, чтобы купить книгу.<sup>5</sup>  
he went to shop that-SUBJ. to-buy book  
「あの人は本を買いにお店へ行った。」

移動の目的は運動の動詞<sup>6</sup>(глаголы движения / verbs of motion)やそれに接頭辞をつけて派生させた動詞の後に不定詞を続けることで表現される。(9a)では、上記のように不定詞で移動の目的が表されている。(9b)のように目的を表す接続詞 *чтобы* を用いることもできるが、(9a)に比べるとかなり容認度が落ちるようである。しかし、(9c)のように行き先 *в магазин* を示せば、目的を表す接続詞 *чтобы* を用いた文は十分に容認される。接続詞 *чтобы* を用いた表現では、動作主体が主節と同一の場合は *чтобы* 節内では主語が示されず、動詞は不定詞となる。

(10) Он открыл окно, чтобы была хорошо видна улица.  
he opened window that-SUBJ. was well visible street  
「(彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。」

ロシア語においては、目的を表す *чтобы* 節内では仮定法が用いられる<sup>7</sup>。ロシア語の仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表される(АН СССР 1960: 501)。(10)では接続詞 *чтобы* が仮定法の標識となっており、動詞は過去時制 *была* になっている。

(11) а. Когда приходит лето, здесь часто бывает дождь.  
when comes summer here often happen rain  
б. Здесь летом часто бывает дождь.  
here in-summer often happen rain  
「ここでは夏になると、よく雨が降ります。」

恒常的条件は(11a)のように接続詞 *когда* によって表される。また、(11b)のように副詞 *летом* で表現することもできる。

---

<sup>5</sup> (9c)はアンケートにはない、追加の例文である。

<sup>6</sup> ロシア語において、運動の動詞は特殊なカテゴリーを形成している。ロシア語の動詞の大多数は不完了体と完了体のペアを形成するが、運動の動詞は全て不完了体であり、ペアを組む完了体動詞が存在しない。また、運動の動詞は様々な接頭辞を添加することで、付加的な意味を持つ動詞を体系的に派生させることができる。ただし、接頭辞をつけて派生させた動詞は、運動の動詞のカテゴリーには属さず、不完了体と完了体のペアを形成する。

<sup>7</sup> ただし、先にも述べたが、(9c)のように *чтобы* 節内の動作主体が主節と同一の場合は、*чтобы* 節内では主語が現れず、動詞は不定詞になる。

- (12) Я открыл окно, и из него подул холодный ветер.  
 I opened window and from it blew cold wind  
 「窓を開けると、冷たい風が入って来た。」

もうすでに起きたことを表す確定条件は(12)のように接続詞 *и* によって表現される。

- (13) a. Я поднялся на склон и увидел море.  
 I went-up-PFV. slope and saw-PFV. sea  
 b. Поднявшись на склон, я увидел море.  
 go-up-PFV.GER. slope I saw-PFV. sea  
 「坂を上ると、海が見えた。」

(13a)のように、主節が「発見」の事態となっている確定条件も(12)と同様に接続詞 *и* によって表現される。この場合は(13b)のように副動詞過去の使用も容認される。

- (14) Если завтра будет дождь, я не пойду туда.  
 If tomorrow will-be rain I not will-go there  
 「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

仮定条件は(14)で示すように接続詞 *если* を用いて表現される。

- (15) a. Если бы я встал пораньше...  
 If PART.-SUBJ. I got-up earlier  
 b. Было бы хорошо, если бы я встал пораньше.  
 was PART.-SUBJ. good if PART.-SUBJ. I got-up earlier  
 「もっと早く起きればよかったなあ。」

反実仮想を表す際は、仮定法が用いられる。先にも述べたように、ロシア語において仮定法は動詞の過去時制と仮定法を明示する標識によって表現される(АН СССР 1960: 501)。(15a, b)ともに助詞の *бы* が仮定法の標識となっており、動詞は過去時制になっている。(15a)は条件節のみで成立しており、(15b)は帰結節まで現れている。

- (16) a. Если бы я только не пошёл в это место...  
 If PART.-SUBJ. I only not went to this place  
 b. Было бы хорошо, если бы я не пошёл в это место.  
 was PART.-SUBJ. good if PART.-SUBJ. I not went to this place  
 「あんなところに行かなければよかった。」

前件が否定されても反実仮想を表す際は、(15)同様に仮定法が用いられる。(16a)は条件節のみで成立しており、(16b)は帰結節まで現れている。

- (17) a. Один плюс один будет два.  
one plus one will-be two  
b. Если добавить один к одному, то будет два.  
if to-add one to one then will-be two  
「1に1を足せば、2になる。」

一般的真理については、ロシア語においては(17a)のように単文で表すことも可能であるが、(17b)のように、条件形式も用いることができる。

- (18) a. Когда вы придёте на станцию, позвоните мне.  
when you come to station call-IMP. me  
b. \*Если вы придёте на станцию, позвоните мне.  
if you come to station call-IMP. me  
「駅に着いたら電話をしてください。」

後件に働きかけのモダリティが現れる文では、(18a)のように接続詞 *когда* を用いて表す。(18b)のように接続詞 *если* を用いると非文となる。

- (19) a. Когда придёт воскресенье, я хотел бы пойти в парк со всеми.  
when comes Sunday I wanted PART-SUBJ. to-go to park with all  
b. В воскресенье я хотел бы пойти в парк со всеми.  
on Sunday I wanted PART-SUBJ. to-go to park with all  
「日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。」

(18a)と同様、後件に願望のモダリティのある条件文は(19a)で示すように接続詞 *когда* で表すことができる。しかし、この場合は(19b)のように単文で表す方が自然であるようである。

- (20) Будет неприятно, если завтра пойдёт дождь.  
will-be unpleasant if tomorrow rains  
「明日雨が降ったら困るなあ。」

心配を表す文においても(20)で示すように、単純な条件文が用いられる。

- (21) a. \*Если вы придёте ко мне, позвоните.  
 if you come to me call-IMP.  
 b. Если вы соберётесь прийти ко мне, позвоните.  
 if you intend to-come to me call-IMP.  
 「家に来るなら、電話をしてから来てください。」

時間的前後関係に則していない条件文では、(21a)のように単純な条件文では表せず、(21b)のように *собраться* (> *соберётся*) を用いなくてはならない。*собраться* を用いることで時間的前後関係に整合性を持たせている。

- (22) Когда будет звонок, скажите мне.  
 when will-be bell tell-IMP. me  
 「(もうすぐベルが鳴るので)鳴ったら、教えてください。」

予想を伴う条件文では、接続詞 *если* ではなく、接続詞 *когда* が用いられる。

- (23) Если будет звонок, скажите мне.  
 if will-be bell tell-IMP. me  
 「(もしかしたらベルが鳴るかもしれないので)もし鳴ったら、教えてください。」

一方で、予想を伴わない条件文では接続詞 *когда* ではなく、接続詞 *если* が用いられる。

- (24) a. Кто не работает, тот не ест.  
 who not works that not eats  
 「働かざる者食うべからず。」(ことわざ)  
 b. Тот, кто не работает, не должен есть.  
 that who not works not must to-eat  
 「働かない者は、食べるべきではない。」  
 c. Тот, кто не знает об этом, не должен участвовать.<sup>8</sup>  
 that who not knows about this not must to-participate  
 「これについて知らない者は参加すべきでない。」

(24a)は「誰が働かない、その人は食べない」という疑問詞-代名詞の相関構文の形式をとっている。(24b)のように関係代名詞を用いた通常の文も一応容認可能であるとのことである。ことわざとは関係のない文であれば、(24b)と同様の形式である(24c)は全く問題なく容認される。

<sup>8</sup> (24c)はアンケートにはない、追加の例文である。

- (25) a. Если бы у меня были деньги...  
 if PART.-SUBJ. at me were money  
 b. Было бы лучше, если бы было побольше денег.  
 was PART.-SUBJ. better if PART.-SUBJ. was more money-GEN.  
 「もう少しお金があったらなあ。」

願望を表す言いさしは、(25a)のように仮定法の条件節のみを示すことで表される。(25b)のように条件節、帰結節を共に示す仮定法の文でも同内容が表現できる。

- (26) Попробуйте и это.  
 try-IMP. too this  
 「これも食べたら？」

(26)で示すように、提案もしくは勧誘を表す場合は、(25a)とは異なり単純な命令法を用いた形となっている。

- (27) Сделай, как хочешь.  
 do-IMP. as want-2ND.  
 「やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？」

(27)は(26)と異なったモダリティの意味を表しているが、同じように命令法を用いて表現されている。

- (28) Этот стакан не разобьётся, даже если он упадёт.  
 this glass not breaks even if it falls  
 「このコップは落としても割れない。」

仮定的な逆接は、単純に接続詞 *если* を用いるのではなく、助詞の *даже* を用いて *даже если* という形で表される。

- (29) a. Это яблоко дорогое, но совсем не сладкое.  
 this apple expensive but not-at-all sweet  
 b. Несмотря на то, что это яблоко дорогое, оно совсем не сладкое.  
 although this apple expensive it not-at-all sweet  
 「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。」

すでに実現した事柄についての逆接は、(29a)のように接続詞 *но* を用いて表現される。(29b)のように *несмотря на то, что* という合成接続詞を用いることもできる。

- (30) Я пришёл к нему домой, но его не было.  
I went to him home but he-GEN. not was  
「彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。」

異主語による逆接でも(29a)と同様に接続詞 *но* を用いることができる<sup>9</sup>。

- (30) a. Я буду ждать, когда он придёт.  
I will wait-IPFV. when he comes  
b. Я буду ждать, пока он не придёт.  
I will wait-IPFV. until he comes  
「あの人が来るまで、私はここで待っています。」

時間的な到達点を表す場合は、(30a)のように接続詞 *когда* を用いて表現される。(30b)のように接続詞 *пока* を用いることもできる。その場合は接続詞 *пока* の後に *не* が使われる。この *не* は否定辞ではなく、合成接続詞の1部であるとされる(АН СССР 1980: I: 716, Шведова 2007: 681)。

- (31) Я приготовлю обед до того, как он придёт.  
I prepare-IPFV. lunch before he comes  
「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。」

時間的期限を表す場合は合成接続詞 *до того, как* などが用いられる。

#### 参考文献

- АН СССР. 1960. *Грамматика русского языка*, т. I, Москва: Издательство Академии наук СССР.  
АН СССР. 1980. *Русская Грамматика*, тт. I-II, Москва: Наука.  
Шведова, Наталия Ю. 2007. *Толковый словарь русского языка: с включением сведений о происхождении слов*, Москва: Азбуковник.  
Wade, Terence. 2011. *A Comprehensive Russian Grammar*, 3rd ed., revised and updated, Oxford: Blackwell.

---

<sup>9</sup> 正確にいえば、(30)の後半の節 *но его не было* には(主格)主語は存在しない。しかし、前半の主語がある節 *Я пришёл к нему домой* と後半の主語がない節の接続も1種の異主語の節の接続であると思われる。